

●理事長

本日はお時間頂きありがとうございます。

市長から日々斬新なアイデアを発信して頂いてますが、我々もその提案が刺激になっており、本日も色々お聞かせ頂ければと思います。よろしくお願い致します。

○市長

こちらこそ、よろしくお願ひします。

●理事長

今年度は、我々の運動の本質を見抜いてほしいとの思いで、「活眼を開け～後世を先見し、輿論の担い手となろう～」というスローガンを掲げました。市長は若者や人材の育成についてどのようにお考えですか？

○市長

新規採用職員や若手職員にも共通していますが、若者は小さな障害さえ取り除いてあげれば勝手に育つ力を有しています。でも、情報不足等の小さな障害で曲がってしまってダメになる、嫌になることがあります。そこに、手を差し伸べてあげることが必要で、やる気にあふれているが小さな障害で立ち止まっている人材にチャンスを与えるような取組を進めていきたいですね。

●理事長

そうですね、我々も後で考えると小さな事で躓いていることが多いですね。

JCは失敗や躓きを許容する団体です。多くの失敗や反省を繰り返しながら、ともに成長していこうという考えのもと、人材育成を行っています。市長のおっしゃる通り上手いかないことで小さな障害で躓いてしまうこともあります。先輩や同期の仲間が手を差し伸べ、助け合う文化が根付いています。職場以外の場所でこういう経験ができるのはJCの良いところだと思っています。これからもここは大切に、会員の育成に取り組んでいきたいですね。

○市長

それと、若者ということですが、ぼくが考える若者は、弱いところが多く、人生経験も少なく、判断能力も十分ではなく、全くの素材で、社会ではまだ何もできないと思います。でも彼らにしかないもの、それはリスクを考えず、どこにでも飛び込む勢いです。そして、諦めず、対価を求めず、コツコツとやり続ける能力です。守るものが出てきた時点で若者は卒業だと思います。若者には、驚きを期待しています。みんながリスクが高いと思うことに挑戦する若者が世の中を変えていくと思います。

●理事長

我々JCもリスクを恐れず、今まで以上に色んな事に挑戦していきたいと思います。青年の集まりなので。

○市長

皆さんは社会でそれぞれ守るものを持っている人で大変な面もあるかと思いますが、団体としては非生産的な事を楽しそうにトコトンやってほしいですね。そして周囲が、あの集団に何があるのか不思議に思うくらい様々なチャレンジをして、市民をどんどん引き込んでほしいですね。

●理事長

はい、頑張っていきます。現状維持を目指しても衰退していく、先頭に立って現状を変えていくのが我々JCだと思っています。

○市長

同感ですね。懐かしい言葉でエントロピーって知っていますか。人も机も物質はほっておくと落ちていく、これはエントロピーが増大しているですよ。現状維持するということは持ち上げている状態といえます。更に不連続に上げようとするとう莫大なエネルギーが必要になりますね。行政でも現状維持しているつもりが、実は陰でエントロピーが増大している。水道料金の値上げが、まさにこの典型です。同じ水道料金でいくのが現状維持だと思われていましたが、その裏でエントロピーがどんどん増大していました。だから、水道料金でいうと定期的に料金を見直していくことで現状維持が可能になるということです。

●理事長

今後、JCにどのようなことを期待されますか。

○市長

そうですね、是非お願いしたいのは、準備から片付けまでトータルの取り組みをしてほしいですね。料理にも共通しますが、メニューの提案や調理にはそれぞれのプロがいます。でもトータルのコーディネーターはなかなかいないんですよ。皆さんの豊富なアイデアを基に、目的・手段を明確に意識して、トータルに取り組んでください。

●理事長

行政では課題解決と魅力発信のどちらも担っているが、横串が刺さっていないように感じます。私は、課題解決と魅力発信を組み合わせることでより大きな効果を発揮できると考えています。今ある魅力を通して人々の心にどのような価値を残し続けることができるか、その価値がどのような形となって未来を創っていくことができるか想像することが必要です。来年度は公益団体として、この部分に取り組みたいと思っていますが、市長は如何お考えでしょうか。

○市長

行政と市民の両方が正しくても、うまく擦り合わないことが多いんですよね。行政と市民では言葉が違って、この間をつなぐ人材が必要だと思います。昔、東京都港区の部長さんがNPOを設立し、市民の意見を聞いて区役所の各部署にその内容を解きほぐして問題を解決していった事例があるんですが、このような人材がいないですね。ぼくがこの役割をする訳にはいかないの、そういう人・組織を、JCの皆さんに担って頂けるのではないのでしょうか。

●理事長

突然で驚きましたが、期待頂けるのはうれしいですね。次に、地域教育についてですが、我々JCは地域教育の担い手として、学校教育や家庭教育では経験できない機会を通じて、子どもにとって人生の転機となる確かな経験を提供したいと考えています。かけがえのない経験が、人の資質とは異なる人間性を涵養する礎となり、総合的人間力や生きる力になり変わると思っています。我々は我々が行う事業を通じて一人でも多く、人生の転機となる経験をさせることができるか、この点を工夫の中でこだわり続けていきたいと考えています。市長は地域教育についてどうお考えですか。

○市長

背中を見せることに尽きると思います。家庭教育や学校教育と違い、聞かれたときに応える形が必要ですね。自然とごみが拾えるような人を、回りは見えていますから。

●理事長

自然体の教育ということですね。我々もそのような意識を持って活動していきます。次に、国際交流に関してはどうお考えですか。

○市長

国際交流という言葉を使うのをやめようと思いましたが、海外旅行が特別な時代には国際交流は必要でしたが、今大切なのは多文化共生だと思う。地域の中にいる悩みを持つ外国人をサポートしていく必要があり、一部公民館等で取り組んで頂いていますが、まだまだ活動を広げていけないと思っています。外国人がこのまちをホームだと思えるのは、友達が出来たときだと思います。吹田をホームタウンを思えるようになってほしいと思っていますので、この部分でも、JCの皆さんの協力を頂きたいですね。来年からは、多文化共生路線を目指していきます。期待しててください。

●理事長

はい、楽しみにしています。我々もお力になれるように頑張っていきます。本日は、お時間を取って頂きありがとうございました。一年間よろしくお願い致します。